まちを愛し、まちを元気に

ナバリスト 32

藤堂 高吉 公　初代名張藤堂家当主



イメージ画で甦る高吉公のお姿！

とうどう たかよし ● 1579 年、丹羽長秀の三男として近江（現滋賀県）佐和山城で生まれる。4 歳で豊臣秀長の養子となり、10 歳で藤堂高虎の養子に。政治的対立や時代の変化の中で不遇な立場に置かれ「悲運の武将」とも言われるが、その荒波を乗り越え、名張の礎を築いた名君でもある。1670 年、名張で 92 歳の生涯を終える。

関連 P10



表紙でご紹介した高吉公の肖像イメージ画は、名張藤堂家邸で常設展示しています



名張藤堂家の菩提寺「徳蓮院」に、高吉公から 13 代高伸公までの墓所がある



高吉の死後、家臣が高吉公を祭神として建てた寿栄神社。名張藤堂家邸に隣接

若武者の夢、名君の道

拙者は丹羽長秀公の三男として生まれ、幼名を仙丸と申した。本能寺の変を境に、その歩みは大きく変わった。羽柴秀吉公の意向により秀長公の養子となり、後には藤堂高虎公の養子となって、高吉と名を改めた。生まれ育った家を離れ、幾度も立場を変えながら、拙者は時代の大きなうねりの中を渡り歩いてきた。

十四で高虎公とともに朝鮮の役で初陣を迎え、二十二の頃には関ヶ原で戦に加わった。高虎公が伊勢・伊賀へ移られた後は、拙者が今治に残り、城主を務めることとなった。今治で過ごした年月は、実に二十七年。その間も、大坂の陣では高虎軍の一員として出陣し、戦の行方が自らの運命をも左右する時代を生き抜いたのだ。

高虎公が亡くなると、家督は実子の高次公が継いだ。そして五十八の頃、領地替えにより名張へ参った。その半世紀ほど前、名張は天正伊賀の乱で大きな打撃を受けておった。拙者は古城跡に御殿を構え、今治から伴った家臣を住まわせ、商人や町人の居場所を整えた。道や水路に目を配り、名張川にも堤防を築いて、城下町・宿場町として名張のまちを整えていった。

このたび、関ヶ原に従軍した若武者の姿と、名張の礎を築いた頃の姿を描いていただいた。振り返れば、その時々に託された役目に向き合ってきたものだ。その積み重ねが、後の世の礎となるのではなかろうか。皆々にも、この地で重ねられてきた歩みに目を向け、名張のよさを次の世代へ受け継いでいっていただきたい。

※本記事は名張市史などを参考にした創作です（年齢は数え年）。

編集後記

3月号の取材で川口さんの武将画に出会い、「高吉公を描いてもらえたら」と願っていた私。数多くの下絵を重ねていただく中で、異なる時代の高吉公のお姿が現れていきました（たか）

川口さんの絵の額縁は、近隣の工場で出た廃プラスチックで作られた物。リサイクルとは思えない重厚感が繊細なイメージ画をより引き立てます。藤堂家邸で直接見て楽しんでみて（くま）

「東山ふれあいの森」の整備をしている「グリーンボランティア森林づくり名張」の代表・栢部さん。園内で最も好きな場所は「ドウダンツツジの道」だそう。これから紅葉が見頃です！ぜひ！（はな）

名張のイベント情報サイト「バリデー」を盛り上げようと、投稿を呼びかけた結果、月30件ものイベントが載るように。とてもうれしいです！お出かけ先探しにぜひ活用してね（おふじ）

なばりのひと・活動

令和8年11月10日発行
広報なばり
● 人口　72,367 人（前月比−14 人）　● 世帯数　34,946 世帯（前月比 + 12 世帯）※ 10/1 現在
発行／名張市 なばりの未来創造部 広報シティプロモーション推進室　〒518-0492 名張市鴻之台1-1
0595-63-7402　FAX 0595-63-2560　pr@city.nabari.lg.jp
市HP